

拒絶理由通知書

最終期限

2007年7月23日

特許出願の番号	特願2002-336769
起案日	平成19年 5月21日
特許庁審査官	大橋 賢一 3648 4T00
特許出願人代理人	小島 隆司(外 2名) 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項、第29条の2、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記のパブリケーションに記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記のパブリケーションに記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

3. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願の日前の特許出願であって、その出願後に特許掲載公報の発行又は出願公開がされた下記の特許出願の願書に最初に添付された明細書、特許請求の範囲又は図面に記載された発明と同一であり、しかも、この出願の発明者がその出願前の特許出願に係る上記の発明をした者と同一ではなく、またこの出願の時において、その出願人が上記特許出願の出願人と同一でもないので、特許法第29条の2の規定により、特許を受けることができない。

4. この出願は、発明の詳細な説明の記載が下記の点で、特許法第36条第4項第1号に規定する要件を満たしていない。

拒絶理由通知書

最終期限

2007年7月23日

特許出願の番号	特願2002-336769
起案日	平成19年 5月21日
特許庁審査官	大橋 賢一 3648 4T00
特許出願人代理人	小島 隆司(外 2名) 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項、第29条の2、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記のパブリケーションに記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記のパブリケーションに記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

3. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願の日前の特許出願であって、その出願後に特許掲載公報の発行又は出願公開がされた下記の特許出願の願書に最初に添付された明細書、特許請求の範囲又は図面に記載された発明と同一であり、しかも、この出願の発明者がその出願前の特許出願に係る上記の発明をした者と同一ではなく、またこの出願の時に於いて、その出願人が上記特許出願の出願人と同一でもないので、特許法第29条の2の規定により、特許を受けることができない。

4. この出願は、発明の詳細な説明の記載が下記の点で、特許法第36条第4項第1号に規定する要件を満たしていない。

2号に規定する要件を満たしていない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・理由1:請求項1～5:引用文献1
:請求項1～4:引用文献2
- ・理由2:請求項1～5:引用文献1～4
- ・備考

文献1には、希土類磁石を載置して熱処理する、黒鉛、耐熱金属等からなる台板表面に希土類酸化物層がプラズマ溶射により形成された熱処理台板が記載されている(実用新案登録請求の範囲、第3頁14行目～第4頁1行目、第6頁12行目～14行目、第1表参照)。

文献2には、溶射法により表面に希土類酸化物コーティング層を有する、W、Mo等の高融点金属鋳型が記載されている(請求項1、2、6、7、【0028】参照)。

また、溶射被膜形成後に、該溶射被膜に対して熱処理を行うことは、周知である(要すれば、文献3の請求項1、文献4の請求項1参照)。

- ・理由3
- ・請求項1～5
- ・引用先願5
- ・備考

(請求項1、2、5について)

先願明細書には、以下の記載がある。

(1)「炭素質材の表面にランタン系希土類金属酸化物を主成分とする被覆膜を形成してなることを特徴とする硬質焼結合金の焼結用セッター。」(請求項1)

(2)「上記ランタン系希土類金属酸化物は、酸化エルビウム、酸化イットリウム、酸化ホルミウム、酸化ジスプロシウム、酸化テルビウム、酸化ガドリウムの中の少なくとも1種であることを特徴とする請求項1記載の硬質焼結合金の焼結用セッター。」(請求項2)

(3)「本発明の焼結用セッターにおける被覆膜の形成方法として、溶射法、CVD法、塗布粉末やアルコキシド膜の焼成法などを挙げることができる。中でもプラズマ溶射法は、高融点のランタン系希土類金属酸化物でも緻密で密着性の良好な皮膜が形成できるので好ましい。」(【0014】)

よって、先願明細書には、炭素質材の表面にランタン系希土類金属酸化物を主成分とする被覆膜をプラズマ溶射法により形成してなる硬質焼結合金の焼結用セッターが記載されている。

溶射被膜形成後に、該溶射被膜に対して熱処理を行うことは、周知である（要すれば、文献3の請求項1、文献4の請求項1参照）。

・理由4、5

実施例7～11（【0036】参照）で、希土類酸化物の平板をカーボン基材に貼り付けて希土類酸化物被覆部材を得たとある点について、

（1）どのような貼り付け方をすれば、【0038】に記載される熟履歴に対しても剥がれが起きないのか、本願明細書には、当業者が実施できる程度に記載されているとは認められない。

（2）貼り付ける形態を含むことにより、本願発明の「被覆」の意味するところが不明確である。

引用文献等一覧

1. 実願昭59-028958号（実開昭60-141103号）のマイクロフィルム
2. 特開2000-094090号公報
3. 特開平03-277764号公報
4. 特開平05-271900号公報
5. 特願2001-275024号（特開2003-082402号）

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 IPC C04B41/80-41/87
 C04B35/64
 C04B37/00-37/04
 C23C 4/00- 4/18
 B22F 3/10

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第三部 セラミックス 正 知晃

TEL. 03 (3581) 1101 内線3463

FAX. 03 (3580) 6905